CSR REPORT

ゴールドウインCSRレポート　2012

この報告書は2011年度（2011年4月1日から2012年3月31日）の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。

トップメッセージ

スポーツを軸とした企業活動を通して、社会的な使命と責任を果たしてまいります。

「品質本位」「お客様本位」にもとづく「ものづくり」

創業以来、「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を企業理念としてきたゴールドウインは、スポーツを通して豊かな健康社会を実現することを使命としてきました。当社の原点は、「品質本位」「お客様本位」にもとづく「ものづくり」です。創業以来この基本方針のもと、スポーツ用途はもちろん、スポーツ用途で開発した機能を日常生活においても積極的に使っていただけるように商品の開発に努めてきました。その想いは、私たちの企業理念を込めた新しいタグラインとして「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」を掲げることになった今年においても、少しも揺らぐことはありません。

限りある資源の有効活用

当社はISO14001の認証を取得していますが、省資源活動や環境配慮型商品を開発するだけにとどまらず、従業員ひとりひとりが環境を意識して活動することを心がけています。環境保護に関する「GREEN IS GOOD」というテーマを掲げたのが2008年。以来、製造から販売までの過程において、環境負荷の低い材料を積極的に使用し、長く商品を使用していただくことこそが最大のエコであると訴求してきました。最近では、ポリエステルやナイロンといった石油由来の化学繊維を再生して使用する循環型リサイクル・システム「グリーンサイクル」についても積極的に推進しています。

東日本大震災からの復興に向けて

東日本大震災により被災された方々には、心よりお見舞を申し上げます。ゴールドウイングループは、被災地の復旧に役立てていただくために、これまでに義援金、募金、物資などによる支援を続けてきました。被災者の方々が再びフィールドで思いきり汗を流し、スポーツの楽しさや感動を味わうことができるよう、アスリートや支援団体などと協同しながら、これからも継続的な支援を実施しつづけてまいります。

スポーツ・ファーストによる従業員の育成

お客様に信頼されつづけるためには、商品を利用するお客様の気持ちを感じとり、お客様に求められるものをタイムリーに提案する必要があります。当社の場合、従業員自らがフィールドに出向き、自分たちが生み出した商品を実際に着用し体感します。就業中にも自社製品を積極的に着用することで、それらの長所と短所を実感することを心がけています。それは、まさしく、何よりもスポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、スポーツのチカラを信じる「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」の具現化です。その想いを、ひとりひとりの胸に、これからもスポーツを軸とした企業活動を通して社会的な使命と責任を果たせるよう、いっそう自覚を高め、さらなる努力を続けてまいります。

2012年7月

株式会社ゴールドウイン

代表取締役社長 西田明男

CSRに関する基本的な考え方

ゴールドウイングループCSR方針

スポーツを通じて、人と社会、地球環境との調和をはかり、
持続可能で豊かな社会の実現に寄与します。

「スポーツ」は自然をフィールドとして行われます。自然が破壊され環境が汚染されることは、すなわちスポーツを楽しむ環境「スポーツフィールド」の消滅を意味します。ゴールドウイングループは、次世代のためにも「スポーツフィールド」を維持することに全力を尽くします。それが社会、ひいては当社の発展につながるからです。

長く安心して使えるモノやサービスの提供、企業統治／リスクマネジメント体制の充実も、環境保全と並んで発展には欠かせません。これらによってステークホルダーのみなさまから信頼を得ることが、当社にとってのCSR推進活動の基本となっております。

CSR推進体制

当社の役員および関係会社代表が出席する「CSR推進委員会」を設置。CSR推進委員会で決定された基本的な活動方針は、グループ従業員全員に徹底され、各部門および個人レベルで具体的な活動を推進します。

ゴールドウイン企業理念

スポーツから、もっと健やかで楽しい明日へ。
ゴールドウインは、スポーツ・ファーストを貫いていきます。

創業以来、「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を企業理念としてきたゴールドウイン。62年目を迎える2012年、私たちは、あらためてスポーツへの想いを込めた新しいタグラインを掲げたいと思います。それが、「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」です。スポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、そして、スポーツのチカラを信じること。ゴールドウインは、スポーツ・ファーストによって、人々の生活の質を上げていきます。スポーツのある暮らしを通して、心と身体の健康を提供する企業でありつづけます。

社会とともに持続的に成長していくために

ゴールドウイングループは、CSRに対する取り組みをすべてのステークホルダーのみなさまにご紹介します。CSRレポート2012では、「ものづくり」という事業領域を通じて、社会とともに持続的に成長していくための取り組みをテーマ別にご紹介します。

このレポートを通じて、ゴールドウイングループについてより多くのことを知っていただき、コミュニケーションのきっかけにしていただけたら幸いです。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などもお待ちしております。当社のCSR推進活動は、まだ始まったばかりですが、「身の丈にあった、継続的で、全員参加によるCSR推進活動」をモットーに、これからも積極的に取り組んでまいります。なお、環境面への配慮から本レポートは印刷せず、当社ホームページのみでの公開としております。

報告範囲
対象期間：2011年4月から2012年3月の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。
対象範囲：ゴールドウイングループ全16社を対象としております。
発行：2012年7月
発行責任者：管理本部総務部
主要コミュニケーション媒体
ゴールドウイングループホームページ：http://www.goldwin.co.jp/
CSRレポート：http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/index.html
会社情報：http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html

目次

OPEN

透明性の高い企業であるために、みずからの経営をオープンに。
ガバナンス体制、内部統制、コンプライアンスにおいて、
適正な体制を整え、良識ある企業として責任を果たします。

FAIR

ものづくりの心を大切にして、アスリートに最高の品質を。
スポーツを愛する人に、最高の楽しみを。
よりよい未来のために、健全な社会のために、関わる全てに、
高い倫理観を備えたフェアな企業でありつづけます。

CLEAN

地球環境は、かけがえのないスポーツフィールド。
真摯な行動を自然に向けることを怠らない。
地球環境のために、持続可能な社会のために、
クリーン活動を具体的に進めます。

PASSION

同じフィールドに立つ仲間に敬意と賞賛を。
ひとりひとりがいきいきと働ける職場を目指して。
お客様のために、マーケットのために、
情熱をもってチャレンジを続けます。

SOCIAL

スポーツを通じて人が繋がる、社会が、喜びの輪が、広がる。
地域貢献から次世代の育成まで、
社会の一員であることを自覚して活動します。

OPEN

企業の責任として、自らの経営を明らかにします。

自らの経営をオープンにすること。それは、オープンにできる体制であること。スポーツを通じてより豊かで楽しい暮らしをご提供する当社は、経営においてもその信念を貫きます。ガバナンス体制、内部統制、コンプライアンスにおいて適正な体制を整えるとともに開かれた経営を実践し、良識ある企業の責任を果たします。

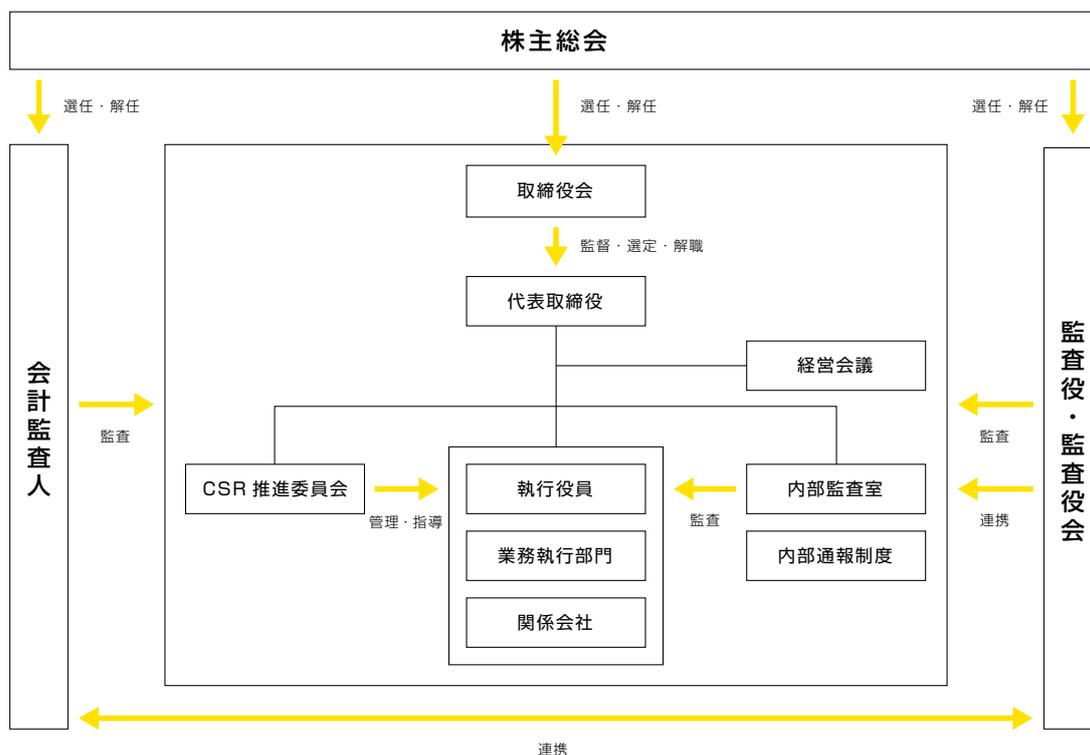
コーポレート・ガバナンス体制

透明性の高い経営

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。

当社では、取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は、原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。そこでは法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施。
　当社は執行役員制度を導入しており、取締役会が任命する執行役員は、各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略にもとづき業務を執行します。
　取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。

監査役会は4名で構成されており、そのうち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。
　内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善／向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。

当社は会計監査人に新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人に正しい経営／財務情報を提供し、公正普遍な立場から監査が実施される環境を整備しております。

内部統制システム

適正な業務を保証するための体制

「人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインは、スポーツフルなライフスタイルを創造し、提供していきます」という企業理念、経営方針および行動規範に示される経営戦略ミッションを、ゴールドウイングループ全役職員によって具現化するために、適切な組織の構築や、規程・ルールの制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行なう体制として、内部統制システムを整備・維持しております。また内部統制システムは適宜見直され、改善を行ない、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立をはかっております。
2008年4月より適用された「金融商品取引法」による内部統制報告制度に対応するために、「ゴールドウイン財務報告基本方針」も制定。財務報告に関する内部統制を強化する体制を整備しました。

内部統制システムの基本方針

取締役の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定事項は、以下の通りです。

1．取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
当社は、コンプライアンスの徹底とモニタリング体制を整備し、取締役の職務の執行が法令等に適合することを確保いたします。また、当社の取締役および使用人は、あらゆる反社会的勢力との関係は一切持ちません。

2．取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
取締役の業務執行に係わる情報は、法令および社内規程に従い適切に保存・管理をいたします。

3．損失の危険の管理に関する規程その他の体制
グループ全体のリスクを統合的に管理し、損失の危険の発生を未然に防止いたします。また、万一損失の危険が発生した場合でも、対応を万全にし、損失の極小化を図ります。

4．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
グループ企業理念を定め、グループ経営計画を明確化し、適切な経営管理を行うことで取締役の職務執行の効率性を確保します。

5．会社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
グループ企業理念・経営方針を各社に浸透させ、コンプライアンスを徹底し、業務の適正化を確保いたします。

6．監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制および当該使用人の独立性に関する事項
監査役が、監査役の職務を補助する使用人を求めた場合、信頼性、経験、専門性等を充分に備えた使用人を専任として任命いたします。

7．取締役および使用人が監査役に報告をするための体制、その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
取締役および使用人が監査役に対して適切に報告する機会と体制を確保いたします。

反社会的勢力排除に向けた体制に関する基本方針

1．当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切の関係を遮断し、反社会的勢力による不当要求は断固拒絶することを行動規範として徹底しております。

2．当社グループは反社会的勢力に関する統括部門を定め、グループ内の情報を収集・管理し、警察、暴力団追放団体、弁護士等との連携を図りながら、反社会的勢力を排除する体制を整備・強化しております。

企業と社会が共存していくために

継続的な「コンプライアンス教育」

当社が「企業行動規範」(下段参照)と「社員行動基準」を改定したのが2008年。以後、社員がこれらへの理解を深めることを目的とした研修を、継続的に実施しています。
企業は経済面だけで評価されるものではありません。企業が社会と共存していくためには、法令を遵守し、ひとりひとりの社員が高い倫理観を備えている必要があります。それこそが、企業の社会的責任です。

ゴールドウイングループ
コンプライアンスカード
(携帯用)

ゴールドウイン役職員は、このカードを念頭に倫理的に行動します。

GOLDWIN

従業員は行動の指針となる「コンプライアンスカード」を携帯しています。

2011年度の研修実績

当社では、コンプライアンス教育として研修を実施しています。主管者に対しては、管理職にとって必要なコンプライアンス・企業倫理を身に付けること、一般社員には、不祥事の事例紹介、基本的なコンプライアンス演習問題実施・DVD鑑賞を通してコンプライアンスの理解促進と啓蒙を図ることを目的としています。研修は、コンプライアンス事例紹介と防止策説明、今までのコンプライアンス研修を踏まえた演習問題、DVD鑑賞(当たり前と感じていることを改めて意識)を対象者別に内容を変えて行いました。
東京、札幌、福岡、名古屋でのべ13回開催。履修率は平均で80%以上となり、未受講者に対しては、研修資料を配布して啓蒙に努めました。今回の研修は、事例を多く上げ同類の事故を起さないよう啓蒙するとともに、演習問題、DVD鑑賞と繰り返し説明して印象づけることで、今後の不祥事防止の機会になったと思われます。

企業行動規範

1.法令・社会規範を遵守し、フェアプレー精神の健全な企業活動を行います。

2.株主・投資家、顧客、取引先などへ、企業情報を積極的かつ公正に開示し、経営の透明性の向上に努めます。また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。

3.社会的に有用で安全な製品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を確保します。

4.従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

5.企業活動を通じてスポーツ文化の発展に寄与し、積極的に社会貢献活動に取り組みます。

6.国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。

7.経営トップは本行動規範の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内およびグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促していきます。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立します。

8.企業倫理に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決に当たる姿勢を社内外に示し、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にしたうえ、自らを含めて厳正な処分を行います。

9.環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存続と活動に必須の要件であることを認識し、地球環境の保全と資源の有効利用、環境保全活動を促進します。

10.市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、一切の関係遮断を徹底します。

従業員行動基準(http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/governance.html)

FAIR

トップアスリートにも、日常生活にも、こだわりの品質を。

当社では、私達の通常の体験では必要とされないようなハイスペックな機能の開発に取り組み、アスリートや冒険家のニーズに応えてきました。一方でフィールドイベントや店頭における消費者の方々との接点を通し、一般の人々が必要なもの、日常生活の快適性を追求した製品開発にも力を入れています。トップに必要とされる技術と、その開発技術を一般や日常に生かすアイデア。当社は技術開発と用途開発の両面を常に考えながら、最高の品質を目指したものづくりをしています。

開発委員会

「開発委員会」は、事業部の枠を超え、自由な発想から斬新な商品やサービスを生み出すことを目的として発足しました。取り組みをスタートして11年。当社は多くのブランドを扱う特徴から、さまざまな製品の着用試験などを通して得られる長所や短所の情報を数多く持ち寄ることができます。「開発委員会」では、その豊富な情報と新たな発想やアイデアを活かし、多様化するお客様のニーズに応える製品開発に励んでいます。これまで開発した商品には、「UVカット」シリーズ、遠赤外線作用のある「光電子」シリーズ、汗の臭いを消臭する「マキシフレッシュ」シリーズ、汗と加齢臭を消臭する「マキシフレッシュプラス」シリーズ、動的冷却素材の「So Cool」シリーズ、カロリー消費量アップの「Calorie Shaper(カロリーシェイパー)」シリーズなどがあります。そのいずれもが「高い機能性」、そして「感動」を体現するものばかり。最高技術を日常へ。日常の心地よさをトップアスリートへ。今後も、「論理」「ひらめき」「技術」「コンセプト」「アイデア」「匠」といったキーワードを重ね合わせながら、高機能商品の開発に取り組んでいきます。

宇宙技術を日常へ。MXPから新提案。「富山県ものづくり大賞」を受賞

当社と独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、(株)J-Spaceとのコラボレーション「宇宙オープンラボ」を通じて開発された「マキシフレッシュプラス」という機能素材。これは頻繁に着替えをすることができない宇宙飛行士の身体を清潔に保つため、抗菌性と消臭機能を備えた特殊な下着として開発されました。この先進のテクノロジーを一般のアンダーウエアに応用した下着が、汗のニオイと加齢臭を大幅にカットするアンダーウエア『MXP(エムエックスピー)』です。清潔で快適な上、お客様のニーズに応える当製品は、2011年度の「富山県ものづくり大賞」を受賞しました。

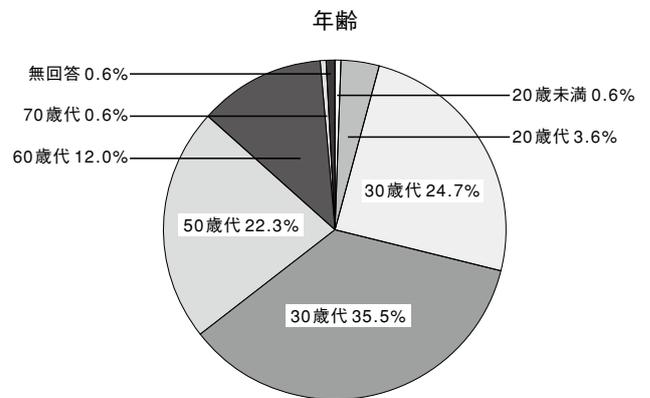
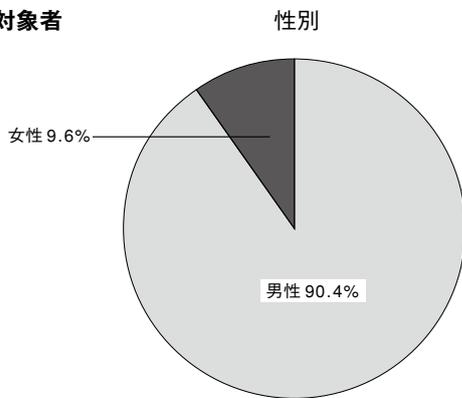
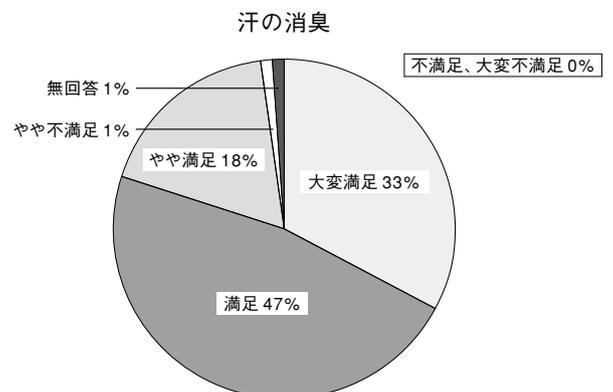
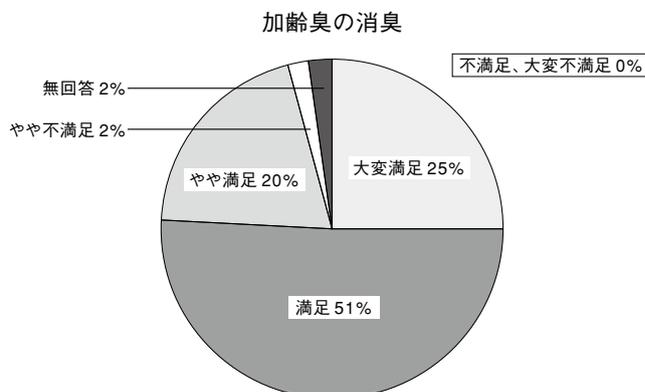
宇宙飛行士の下着から開発。抗菌・消臭効果に優れた高機能素材でつくられています。

“MXP開発への想い”

株式会社ゴールドウィン テクニカルセンター　沼田　喜四司さん

開発委員会発足前から商品開発業務を担当しており、委員会としては発足当初から約7年半、この業務に携わってきました。ザ・ノース・フェイス下着及び宇宙下着開発に約3年、その後、宇宙下着開発を踏まえ、MXP開発に約1年半の期間がかかりました。MXPは宇宙飛行士が着用するという極めて特殊な、いわば究極の環境でも快適に過ごせる技術を応用しています。日常でも汗の臭いは気になるものですからね。マキシフレッシュの特長は、臭気成分を素早く強力にカットする「即効性」と繰り返し洗っても消臭効果を保つ「持続性」をナノテクノロジーで 加工されたカルボキシル基（-COOH）により同時に叶えたことにあります。苦労したことと言えば、開発当初、理論通りの消臭性能がなかなか現れなかったことですね。試行錯誤を重ね、確かな性能の商品が完成しても、本当に売れるのかどうか半信半疑で不安のほうが大きかったというのが実際の気持ちです。消臭実験で参加者の“アッ”と驚く光景を目にしたとき、ようやく安心できました。これまでの努力が報われた瞬間でもありましたね。今後もお客様のニーズに応える製品開発を続けていきたいと思います。

マキシフレッシュ　モニターアンケート調査結果

「マキシフレッシュ プラス アンダーシャツ」について20代～60代を中心とした男女166名にアンケートを行いました。その結果、「加齢臭の消臭」についてはすべての年代の男女で「やや満足」「満足」「大変満足」との回答が95%を上回り、「汗臭の消臭」についても98%の方が消臭効果を実感しているとの回答が得られました。また「一日中着ていてもサラッとしているのが良かったです。この商品を着て、サッカーをして汗をかいても快適でした。」（36歳男性）「着用してみて、今までのシャツと比べて着心地の良さに感動しました。加齢臭や、汗臭など殆ど感じられず、大満足の商品です。」（57歳男性）など、着心地においても好評価をいただきました。

安心を、安全を、安定して届ける。

お客様に誠実であるために。当社は製造の過程や環境、品質管理から製品が使う人の手に届くまでのすべてに責任を持つことが、お客様にフェアであることだと考えています。ルールを守らなくては良いゲームはできない。その信念から、さまざまな取り組みを行っています。

基本方針の徹底

サプライヤー行動規範覚書締結の推進

当社は、公正なルールに則って活動することを「従業員行動規範」の基本方針に掲げています。同様に、海外生産委託先といったサプライチェーンにも、基本方針となる「法令などの遵守」「品質の保証」「環境への取り組み」「人権／人格 ／個性の尊重」に則ることを前提とした「サプライヤー行動規範」を定めています。

近年、当社ではお客様の多様なニーズやライフスタイルに応えるために、サプライチェーンのグローバル化を進めてきました。取引に際しては、この基本方針を遵守していただく必要があるという認識に立っており、「サプライヤー行動規範」の覚書締結を実施しています。

2011年度は、サプライヤー行動規範を遵守する旨の覚書を交わすとともに、9つのカテゴリー（「法令遵守」「労働時間」「児童労働」「強制労働」「賃金および社会保険」「差別や嫌がらせ、虐待の禁止」「安全衛生」「環境保全」「製品、資材、型紙の管理」）からなる全27項目のアンケートも実施しました。基本方針の徹底はおおむね行き届いていることが確認されましたが、2012年度は2011年度の覚書締結率80%を10%上げて、90%を目指します。

機能性・品質表示の適正チェック

当社では、違法表示や誇大表示の撲滅とお客様目線に合った機能性表示、品質表示を推進するため、製品表示の事前確認を行っています。

2011年度は、イラストブック、カタログ、プレスリリース、広告、パブリシティ、店頭POP、報道資料、webサイト更新管理、製品パッケージ、ラベル、取扱説明書等の管理も徹底し、200件以上の表示確認を実施。100件以上の指摘件数がありました。今後も引きつづき、判断材料となる正確な情報ソースに基づき、複数人の判定により適切な指導を実施していき、広範囲に渡って確認件数を増やし、不適正表示、誤表示の撲滅に努めます。

店頭クレーム連絡会

快適な店舗づくりとより良い製品づくりのため、お客様からいただいた声を品質保証部で共有し、販売部とともに対応と改善に取り組む連絡会を行っています。

この連絡会では、接客スタッフの応対や製品に対して寄せられたお客様のご意見にどう対応したか、改善すべき点などを検討します。そして今後も生じることが予想される事項については、事前に対応方法をマニュアル化しています。2011年度は、各店舗スタッフの言葉づかいや気配りに対して寄せられたお客様のご意見から、スタッフ個人の接客スキル向上とゴールドウインの一員としてあるべき姿を示したマニュアルの作成と配布を行いました。また、製品性能の知識不足から生じる問題を防ぐため、防水性、透湿性、UVカット、抗菌防臭性、消臭性の5項目について機能性説明ガイドを作成。製品機能のメリットだけを伝えるのではなく、使用状況に応じて発生する問題や機能劣化のメカニズム、また少しでも長くご使用いただくためのケア方法などについて、スタッフに対し正しい知識の統一を徹底しています。

お客様ひとりひとりにホスピタリティーの精神を。

「接客ロールプレイングコンテスト」開催

販売スタッフを全国より集め、販売スキルの向上とともに、意思統一をはかる「2011年接客ロールプレイングコンテスト」を開催しました。当コンテストは、販売スタッフたちが、日々の業務で培ってきた「接客技術」を披露する場で、今回が3回目となります。
当日は、143名の候補者から東京、大阪、札幌、福岡の地方大会（予選）を経て選抜された販売スタッフ13名が東京に集い、緊張しながらも笑顔で「感じの良い」接客技能を実演しました。採点項目は、「好感度」「挨拶」「言葉づかい」「商品情報」「会話力」「ニーズ」「提案力」の7項目。選抜メンバー以外の販売スタッフも審査員として参加し、しっかり見ることで自身の啓蒙を促します。審査は社長、副社長、部長、販売スタッフを含む参加社員の投票により、ゴールドウインとして感動を与える接客をしたと評価された上位から、最優秀賞1名、優秀賞2名のほか、敢闘賞が贈られました。なお、大会の様子はすべて録画され、研修や新卒会社説明会などでも活用しています。コンテストを継続的に開催する背景には、選抜されることを目標に意識向上を促す目的、ハイレベルな接客技術を目にすることでスキル向上への意識を高める目的も含まれています。今後は各店舗でも接客ロールプレイングをより多く実施していきたいと考えています。

開催には販売スタッフを全国より集め意思統一をはかる目的もあります。また大会を録画し、研修などにも活用しています。

CLEAN

地球はスポーツを楽しめる唯一無二のフィールド。

スポーツは健康を与えてくれる。スポーツは絆を深めてくれる。スポーツは楽しい。それは、スポーツができる健やかな環境があってこそ得られるものです。当社はスポーツアパレル企業として、その大前提である地球環境に真摯に向き合いたいと考えています。現在だけでなく、遠い未来まで地球が健全なスポーツフィールドでありつづけるために、さまざまな施策に取り組んでいます。

氷見市松田江海岸のゴミを大掃除！

当社富山地区グループ会社は、2011年7月9日（土）に氷見市松田江海岸にて一般参加者と、ビーチクリーンを実施しました。
この活動は今回で6年目となり、参加者は回を重ねるごとに増加。今回は従業員とその家族を含む154名が取り組み、終了後に恒例となった氷見市海浜植物園の見学では、家族ぐるみの温かな交流がはかられました。

氷見市松田江海岸のビーチクリーンの様子。従業員とその家族など大勢の参加がありました。

“氷見ビーチクリーンに参加して”

商品部　大井　保さん
私がビーチクリーンに参加したのは、ヘリーハンセン事業部が全国でビーチクリーンをはじめたことに賛同し、富山地区で実施することになったことがきっかけです。スポーツのフィールドが汚れていては、だれもスポーツをしない。スポーツに携わる企業の一員として、スポーツフィールドが少しでもきれいになれば良いと考えています。社員と家族に加え、近辺の取引様もご協力くださり、毎年大勢の人が参加する恒例行事となっています。清掃活動自体も重要なことですが、参加者それぞれが環境について考える日になればと思います。その日1日ビーチ清掃をして終わりではなく、ひとりひとりが翌日から環境を考えながら行動や生活を見直すことが大切だと感じました。どのように生活を送るかが重要だと感じました。

葉山・大浜海岸にてビーチクリーン！

2011年7月2日（土）に神奈川県葉山・大浜海岸にてヘリーハンセン主催のビーチクリーンを行いました。
ヘリーハンセンは1877年、ノルウェーで漁師の為の防水着メーカーとして創業を開始したブランドで、以来130年以上、水に関わってきました。このビーチクリーンは、水を通して環境貢献活動やエコ商品開発をするHelly Hansen Ocean（H2O）プロジェクトの一環として、2005年から全国各地の海岸で開催しています。当日は海岸でのゴミ拾い活動のほか、磯の生き物観察会等も行われ、ファミリーでも楽しめる内容となりました。

「神奈川県立葉山公園」内、大浜海岸でビーチクリーンを実施。家族での参加も多く見られました。

東京本社周辺での清掃ボランティアも継続中！

清掃ボランティアは、当社が環境保全の一環として取り組んできた活動のひとつです。東京地区では2006年5月より、本社周辺（渋谷松涛地区）の清掃を近隣4社合同ではじめました。以後、年に3～4 回程度のペースで継続してきたこの活動は、2011年度も4月、10月、12月、3月の計4回実施。毎回4社総勢70～80名の従業員が参加しています。

東京本社周辺にて清掃ボランティア。地域企業と4社合同で継続しています。

津沢夜高あんどん祭りでの清掃ボランティア

社会人として勤務する地域と企業が良い関係でありつづけることを目指し、前年度から富山県小矢部市津沢地区では地域行事「津沢夜高あんどん祭り」の期間中、津沢自治会主催で行われる早朝ゴミ拾いに参加しています。2011年度は6月4日、5日の2日間、地元住民の方々とともに清掃活動を行いました。ISO14001の「環境方針」にも挙げている「地域社会と共存できる企業」を実現する一環としても、この活動を継続していきます。

開催期間中、地域の方々とともに早朝ゴミ拾いを行いました。

秩父宮ラグビー場周辺清掃ボランティア

株式会社カンタベリーオブニュージーランドジャパン東京本社は、2011年8月にISO14001の認証を取得しました。現在、ラグビーの日本代表をサポートしていることもあり、活動の中に日本ラグビー界のメインスタジアムのある秩父宮ラグビー場近辺の清掃活動をプログラムに取り組んでいます。年に10回ほど活動していますが、今後はさらに多数の大会サポートチームとのコラボレーション企画も増やし、ブランド競技でもあるラグビーの普及活動と共に社会貢献活動に努めていきます。また、東京本社近くのスカイツリー建設に伴い、観光のメッカになると同時にゴミ問題も生じてきているため、東京本社およびスカイツリー近辺の清掃活動も定期的に実施することを検討しています。

秩父宮ラグビー場近辺の清掃ボランティア。地域社会と共存できる企業を目指します。

スポーツフィールドに恩返し！
Shokuju in 筑波山

2011年4月20日～5月22日の期間「TREE FOR THE GLOBE」キャンペーンを行いました。期間中に対象商品の売り上げの一部をNPO法人「地球の緑を育てる会」に寄付し、木の苗木や整備の費用として役立てていただきます。今回はその活動の一環として「地球の緑を育てる会」指導の下、筑波山神社敷地内にて行いました。10月25日当日は15名の社員が筑波山に集合し、クワやツルハシなどの開墾用具を手に、植え込む苗木を背負って植樹に向かいました。土起しや土留め作業などで約60㎡の植栽地を造成し、シラカシ、アラカシ、クスノキ、タブノキ、スダジイ、ヤマザクラ、カクレミノなど15種類200本の苗木を植えました。1本1本に心を込めて、フィールドで楽しんだ分、フィールドに返す。初めての山林植樹ボランティア活動で心地良い汗を流し、今後も有志を募って参加したいと抱負を語り合いました。

スポーツフィールドに恩返しの心を込めて、筑波山神社敷地内に200本の植樹を行いました。

製品を通して環境問題に取り組む「GREEN IS GOOD」。

環境に配慮した製品の開発、楽しみながら環境への負荷を減らせるアイデアなど、スポーツアパレル企業として実施している環境への具体的な取り組みが「GREEN IS GOOD」です。「GREEN CYCLE（くりかえし使う）」、「GREEN MATERIAL（選んで使う）」、「GREEN MIND（大切に使う）」という3つのコンセプトのもと、私達つくる側はもちろん、製品を使うお客様の意識にも働きかけ、共に環境問題に取り組んでいます。

GREEN CYCLE——くりかえし使う

使用後の製品を回収して、新たな製品として再生する循環型のリサイクルシステム。回収された製品は、石油から製造した場合と同レベルの高純度原料に戻し、新しい製品に生まれ変わります。これによりエネルギー使用量、CO2の排出量を削減することが可能になりました。対象となる製品には「GREEN CYCLE」のタグおよびネームを縫い付けています。限りある資源を無駄にしないこの取り組みは、お客様と一緒につくり上げる循環システムです。

リサイクルの対象となる製品には、タグを付けています。

学校体操着回収を実施

当社製品のリサイクルシステムに対応した学校体操着をご採用いただいている富山県立富山北部高等学校、富山県立高岡工芸高等学校と金沢学院東高等学校の3校にご協力をいただき、使用されなくなった体操着の回収を実施しました。卒業する3年生に対して回収BOXを設置。集まった体操着は循環型リサイクルシステムによりポリエステルへと再生します。当社が学校において回収するのはこれが初めての試みとなりましたが、今後も引きつづき、循環型リサイクルシステム「GREEN CYCLE」による体操着の回収を実施していきます。

期間中回収ボックスを設置し、卒業する高校3年生の学校体操服を回収しました。

GREEN MIND——大切に使う

ひとつの製品に愛着を持っていただくこと。頻繁に循環させることを防ぐためにも、お客様に長く使用してもらえる製品づくりに努めています。

長く愛用していただくためのリペアサービス

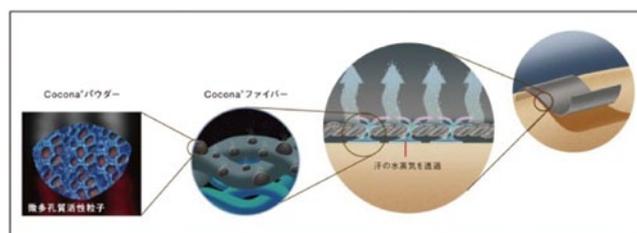
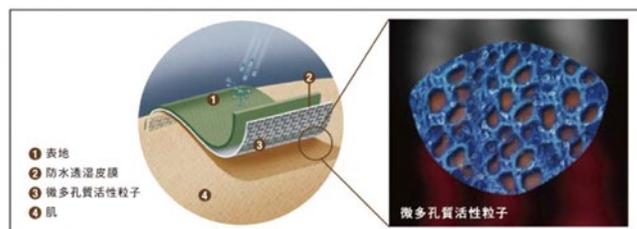
お客様に製品を長くご使用いただきたい。それはものを大切にするという環境への配慮でもあり、当社が製品に持っている自信でもあります。そのため当社ではザ・ノース・フェイスの製品を扱いはじめた30年前から「もし素材や製造上の欠陥が原因であれば、代金は一切いただきません。その他の場合は、適正な価格で修理いたします」を徹底したリペアサービスを行っています。この制度は、アウトドアに限らず、モーターサイクルウエア、スキーウエアなども対象としています。

自信のある製品だから。長くご愛用いただけるよう、丁寧に修理しています。

GREEN MATERIAL──選んでつかう

ポリエステルなどリサイクル可能な繊維や、ユーカリ、竹、ヘンプなど成長の早い植物を原料とした繊維、テンセルやモダールなど環境負荷の少ない天然素材、無農薬の畑で育てられたオーガニックコットンなど、環境に優しい素材を採用。これらをGREEN MATERIALと呼んでいます。これまでさまざまな素材を開発しており、広く製品に使用しています。

GREEN MATERIAL	
リサイクルポリエステル	ペットボトルなどを原料にして再生した繊維を使用しています。ペットボトルなどを再資源化することにより、限りある資源を有効に活用しています。
オーガニックコットン	オーガニックコットンとは3年以上合成化学薬品が使われていない土壌で有機栽培されたコットンのこと。無農薬の畑で作られた、地球（土壌）にも身体にもやさしい素材です。
ケミカルリサイクルポリエステル	回収されたペットボトルなどを分子レベルまで細かくし、石油からできたものと同じ高純度のポリエステル原料に再生した繊維を使用しています。ペットボトルなどを再資源化することにより、限りある資源を有効に活用しています。
マキシフレッシュ®	マキシフレッシュ® は計画植林されたユーカリの樹を原料にした植物系繊維に特殊加工した素材です。ユーカリは成長が早く、耕地面積が少なくてすみ、環境に大きな負荷をかけません。
バンブー	伸長期には一日に約1m以上も成長する「竹」を原料とした繊維を使用しています。竹は成長が早く、伐採しても短期間で成長するので、環境に大きな負荷をかけません。
ヘンプ	ヘンプはわずか120日で約4mもの高さにまで成長します。雑草より早く成長するので、除草剤を必要としません。土壌を選ばず無農薬で栽培でき、環境への負荷を最小限に抑えられます。
モダール®	モダール®はブナ材を原材料とする植物系繊維。広い耕地や大量の水を必要とせず、生産工程で生み出される副産物は全て再利用されるため、環境に大きな負荷をかけません。
テンセル®	テンセル® は計画植林されたユーカリの樹を原料にした植物系繊維です。ユーカリは成長が早く、耕地面積が少なくてすみ、環境に大きな負荷をかけません。
RECYCOLOR（リサイカラー）	本来なら処分する綿の裁断片を集めて繊維に戻し再利用しています。同色系の裁断片を利用して繊維に戻すことで染料を使用せず環境に配慮した素材です。
Cocona natural technology（ココナ ナチュラル テクノロジー）	ヤシ殻を活性炭素化し、高温処理して得られる微多孔質活性粒子と火山性鉱石を利用した微多孔質活性粒子を利用しています。 あまり再利用されることのなかったヤシ殻活性炭微粒子や自然界そのものにある火山性鉱石を再資源化することにより、限りある資源を有効に活用しています。

環境に配慮された高機能ECO素材

Coconaパウダー」を防水透湿素材にプリントしています。

ポリエステル繊維に「Coconaファイバー」を練り込み、交編にしています。

継続可能な社会を実現するために

環境基本理念

私達には、自然と共存し調和ある繁栄を実現する崇高な使命が与えられています。ゴールドウイングループは、スポーツウエアをはじめ各種機能ウエアの企画、製造、販売を通じて環境負荷の低減を目指すとともに、健康総合企業として地球環境にやさしい商品の提供により環境への有益な影響を増進するなど、地球環境保護への姿勢を以下の環境方針に定めます。

環境方針

1．事業活動または保有する設備が適用を受ける環境に関する法律、規則およびその他要求事項を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、環境の汚染予防と保全に努めます。

2．事業活動が環境に与える有害な影響を認識し、全社員参加によりその影響を低減し、緑の地球を守ります。

3．環境影響を改善するための目的・目標の設定、及び見直しを実施し、継続的な改善活動を実施します。

4．エネルギーおよび資源の使用量・排出量を充分に認識し、限りある地球資源の有効利用、産業廃棄物の削減を実施します。

5．持てる経営資源を結集して独自の技術を開発し、人の健康と環境にやさしい商品の開発を推進いたします。

6．自然と生き物が健康体でありつづけるために、自然環境に調和し、地域社会と共存できる企業でありつづけます。

2011年の活動報告

低炭素社会へ向けての取組

（1）環境汚染の予防

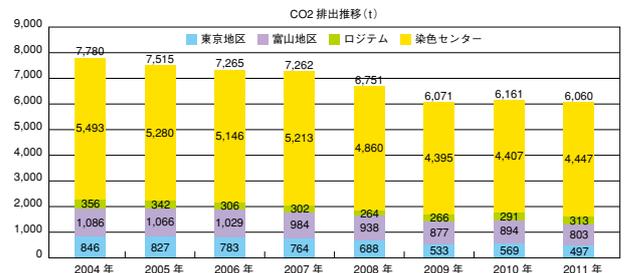
CO2排出量の削減活動の実施（管理項目：CO2排出量）

＜取組み項目＞

①トータルエネルギー使用量の削減（電気、ガソリン、重油、ガスなど）電力削減のため業務改善や作業の効率化をはかり時間外労働の削減を推進しました。

②照明・空調・生産設備などの見直しによる省エネ活動を推進しました。

［取組結果］2011年度は東日本大震災の影響による節電活動の推進などもあり、電力使用量が東京地区では前年比15%減、富山地区では8%減と大幅減となりました。

［取組結果］CO2排出量は昨年比2%減となりました。

循環型社会へ向けての取組

（2）限りある地球資源の有効活用

省資源活動の推進（管理項目：原材料使用量改善件数）

設計段階や生産段階での歩留まり改善活動に取り組みました。

物量梱包資材の削減活動を推進しました。

［取組結果］歩留まり改善件数67件となりました。

（3）産業廃棄物の削減（管理項目：排出量、廃プラ排出量）

製造から販売段階で発生する産業廃棄物を削減するため返品率低減や不良防止活動、余剰生地の再利用など発生予防に努め、製造から販売での産業廃棄物（製品・原材料の廃棄処分含む）の削減活動を推進しました。

［取組結果］富山工場を中心に、産業廃棄物の削減と再資源化活動を推進し、ゼロエミッションを維持しました。

産業廃棄物排出量は前年比20%減となりました。

返品率は前年比15%減と大幅減。余剰原材料再利用金額は400,000千円となりました。

（4）人の健康と環境に優しい商品の開発（管理項目：販売比率）

人の健康と環境にやさしい商品の販売拡大に努めました。また、自社直営店でLEDなどを使用した環境配慮型店舗をエコshopと定義し販売強化に取り組みました。

［取組結果］環境商品販売比率は残念ながら前年からダウンし6.1%となりました。

LED照明等を積極的に取り入れたエコショップは今年度新規・改装含め13店舗となりました。

ISO14001認証取得

当社はグループ会社においても、環境負荷の低減をはじめとする環境保全に取り組んでいます。株式会社カンタベリーオブニュージーランドジャパン東京本社は、2011年8月に環境マネージメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しました。

PASSION

「禁煙」「食生活」「運動」3方向から従業員の健康を応援。

スポーツのある豊かなくらしを実現するために、みずからがいきいきと健康でなければならないと考えています。そこで前期から「健康寿命をのばしましょう」をスローガンとした厚生労働省の「スマートライフプロジェクト」に賛同し、社内でも従業員に向けた健康意識の啓発活動を展開しています。健康でいるために必要な「禁煙」、生きていくために欠かせない「食」、スポーツアパレル企業として積極的に取り組みつづけている「運動」。この3つの分野に具体的なアクションを起こすことで、健康的で明るい社内環境を整えています。

社員と家族の健康を目的とした社内全面禁煙

社員の健康維持と、働きやすい職場づくりの一環として、世界禁煙デーとなる2010年5月31日より、テナントビルを除く全事業所施設内の全面禁煙を開始し、2年を迎えました。この取り組みは、社会的に高まりを見せる禁煙の動きに賛同し、社員とその家族の健康を維持すること、受動喫煙を防ぐことを目的としています。まず実施したのはテナントビルを除くすべての事務所にある喫煙所の撤去。施設内と当社主催イベントは、終日禁煙としました。あわせて毎年5月31日を「ゴールドウイン禁煙デー」と定め、さまざまな禁煙に向けた取り組みを推進。社内では、小冊子などによる禁煙の啓発、産業医による禁煙支援セミナーの実施など、禁煙に興味を持った人が気軽に情報を得られるように配慮しています。
これを機に禁煙をする従業員に対しては、会社と健康保険組合の連携による「禁煙支援キャンペーン」を実施。会社からは、禁煙している旨を「宣誓書」で提出すると支援額として5,000円を支給。健康保険組合は、禁煙治療が保険適用とならない場合に、治療費の7割相当額（上限28,000円）が支給される「禁煙治療コース」、禁煙補助薬（市販薬）などの購入費の7割相当額（上限15,000円）が支給される「セルフ禁煙コース」を用意し、禁煙を支援しています。

健康と嗜好に配慮したぬくもりあふれる社員食堂

いきいきと働くためにも、スポーツを楽しむためにも、健康に生きていくためにも食事は欠くことのできないものです。食については以前からさまざまな活動をしてきましたが、この想いをより具体的に表現しているのが社員食堂です。食堂を利用するすべての方に食の重要性について意識してもらえるよう、テーブルや壁に栄養に関するひと口メモや生活習慣病の予防ポイントなどを掲示しています。
メニューは、ワンコインの日替わり定食、みそ汁とサラダ付きの丼、麺類、50円から数多く取り揃えた小鉢のほか、アラカルトやサラダバー、さらには季節の限定メニューや低カロリーを意識したヘルシーメニューまで登場。食堂は、普段接することの少ない社員同士が談笑しながら食事を楽しんだり、ときには社外の方を招いたりするなど、社員の健康維持に加え社内外の親睦にも貢献する存在です。これからも、栄養バランスが良く、おいしくて食事することが楽しみになるようなメニュー構築、運営、健康管理の情報提供を推進していきます。

本日の献立。季節やバランスを考慮し、バラエティーに富んだメニューを揃えています。

社内外の親睦に貢献する東京本社の食堂は、心地よいカフェテリアになっています。

日常的に通勤という運動を取り入れる「自転車通勤」制度

自転車ブランドを展開する企業の使命として、2010年3月29日より自転車通勤を社内制度化しています。当社では、「ゴールドウィン」「スコット」の2ブランドで自転車および自転車関連商品を販売しており、社員に対して「みずから自転車に乗ることで自転車を楽しむお客様の視点に立つとともに、よりいきいきと健康的な生活を送ってほしい。さらに、自転車でのエコ通勤を通じて、環境意識を高めてもらいたい」との想いから、スポーツ業界として初めて自転車通勤の制度化をスタートさせました。当初9名だった登録者は、2012年3月現在で17名まで増加。また、自転車通勤者を支援するための設備として、2010年7月からは地下1階のシャワー室が使用できるようになりました(7:30～8:40の間、一人10分)。

本社ビル地下1階に設けられた駐輪場。現在17名が利用しています。

"自転車通勤はじめました"

経営企画室　佐藤　修さん

40歳を過ぎてから受けた健康診断で初めて「再検査」の項目が出てしまったのをきっかけに自転車通勤をはじめました。会社までは片道17kmで所要時間は約50分。電車で通勤するのと殆ど変わらないんですよ。まず嬉しかったのは、通勤ラッシュから解放されたこと。それから朝日を浴びながら通勤することでシャキッと目が覚めて、出勤してすぐ仕事モードに入れるようになったことですね。また、雨の日や飲み会がある時などは自転車には乗りませんので、自転車通勤者には距離に応じて手当が支給されることはありがたいです。自分が毎日自転車に乗ることで気づいたこともあります。私の通勤ルートでは東日本大震災以降、自転車通勤の人たちが増えているのですが、ノーヘル、ヘッドフォン装着、信号無視など交通ルールを守らない人たちも増えているように感じます。自転車による事故激増が問題視されている昨今、自転車を扱う会社の一員として、こうした行為を目にすると残念な気持ちになります。事故を起こさないためにも、時間に余裕を持って家を出ること。そしてルールを守ることはもちろん、歩行者に対して加害者になる危険性があることを自覚して、これからも自転車通勤を続けていきたいです。

"制度実現までの道のり"

総務部　鈴木　直さん

「スコット」ブランドを扱いはじめて、スポーツ自転車に乗るようになった社員たちから最初に「自転車通勤を認めてほしい」との要望があったのは2008年ころだったと思います。会社として自転車通勤制度を導入するには多くのリスクや問題が伴います。折からの自転車ブームと同時に危険な運転をする自転車の存在が社会的にクローズアップされはじめていたため、まず安全運転に関する問題がありました。そして駐輪場の確保、雨が降るなど自転車で来ることができない状況での通勤手当をどうするかということも検討しなければなりませんでした。これらをひとつひとつ解決し、設備を整える一方、自転車通勤は許可制にし、交通規則を守る旨を記載した誓約書の提出、社内駐輪場を必ず使用するといったルールを設定しました。また、電車やバスでの通勤とは違い、自転車通勤での交通事故は本人がケガをする場合だけでなく、加害者にもなりえます。そのため、社員には保険への加入を義務づけています。同時に通勤手当については通勤距離に応じて金額を支給する制度を導入しました。2年という歳月をかけてようやく実現できたわけですが、今現在、地方在住社員や当社直営店の販売スタッフについての制度が不充分です。今後はそちらも充実させていきたいと思います。また、2012年度に警視庁の「自転車総合対策推進検討委員会」の委員として当社社員が委嘱されました。当社の制度が自転車通勤の普及に貢献できればよいかと思っております。

趣味と健康維持を兼ねたクラブ活動で熱い職場づくり

社内では、モーターサイクル部、アウトドア部、野球部、サッカー・フットサル部、自転車部など、さまざまなクラブ活動が盛んです。ひとりひとりの心と身体の健康だけでなく、スポーツする楽しさ、喜びを部署や立場を越え、共に助け合い分かち合う中で、コミュニケーションの輪を広げています。クラブ活動で培った共同意識はその中だけのものではなく、職場環境の向上、仕事に対する意欲の向上という熱い職場づくりにも役立っています。また、スポーツアパレル企業として、社内外の関連商品を体感することで商品開発のヒントを探るというメリットもあります。

サッカー・フットサル部：東京・富山の合同合宿を実施。勤務地の離れたメンバー同士が練習を通して交流を深めています。

グループ親善スポーツ大会

クラブ活動の延長として催される「親善スポーツ大会」も、普段の仕事では関わることのない社員同士が交流をはかる機会です。これは全国にいる社員が、交流戦を通じて相互コミュニケーションの充実をはかる取り組みとして毎年行っている大会です。今回は2011年10月22日、富山に集まりました。当日は富山、東京、大阪地区の各クラブ対抗で野球とサッカーの対抗試合が行われました。野球部やサッカー・フットサル部の参加だけでなく、モーターサイクル部やフィッシング部など幅広いクラブが参加。今回も試合後に開催された懇親会では、地域を越えた親睦を深めました。また、当大会では、全社員に向けたテニス教室とスポーツ教室（ヨガ、ウォーキング）も開催され、従業員と家族72名の参加がありました。

野球部、試合前の様子。親善試合といえど各地区とも気合いが入ります。

富山地区運動会

社内コミュニケーションの一環として開催されるのが、恒例の運動会です。この日はスポーツを通じて、普段接することのない部門間での交流が活発に行われます。さまざまな競技で汗を流すことは運動不足の解消への第一歩にもなりますが、社員みずからが自社製品を身につけることで、豊かなスポーツライフを提案する際の土台にすることも狙いのひとつです。2011年7月2日は80%を上回る参加率となり、398名と100名ほどの子どもたちが福野体育館に集まりました。競技種目は、風船割レースからはじまり、大玉転がしや子どもによるパン食い競走、玉入れにリレーなど10種目以上。家族のみなさまにも、社内の和気あいあいとした雰囲気を感じていただきました。

大勢の社員と家族のみなさまの参加により、各競技とも大盛況となりました。

防災体制を強化

2011年度、当社では東日本大震災の教訓を踏まえ、防災体制の確認と従業員に対する周知をかねた防災訓練の実施と備蓄品の見直しを行いました。
当日は震度6弱の地震を想定。第一部では、災害対策委員の訓練として災害対策本部を設置。全館を巡回する管内安全確認担当、安否確認担当、帰宅支援担当といった各担当から、対策委員長および対策副本部長への情報報告フローを確認しました。第二部では、一般社員への避難訓練を実施。地震発生時には机の下などへの避難で安全確保を指示します。その後、近隣にて火災が発生したことを想定し、屋外への避難経路、所要時間の計測を行いました。また訓練後には、AED説明会と消火器訓練も実施しました。備蓄品については、本社ビルの在館人数を最大500人（社員400人、本社ビル従業員10人、お客様ほか10人）を想定し、宿泊場所面積およびフロア別宿泊可能人数を確認した上で、毛布や使い捨てカイロなど、大幅に強化しました。

AEDは東京本社、富山地区グループ4社に計5カ所設置しています。

安否確認システム

東日本大震災発生時は、被災地にグループ社員が比較的少なく、会社（富山）からの電話にてその日のうちに社員の安否を確認することができました。しかし、東京直下型などの大地震が起こった場合は、電話での安否確認ではかなりの時間がかかることが予想されます。そこで災害発生時には、パソコンから社員全員の携帯電話へ一斉メールを発信、社員はメール文のURL（アドレス）から安否をアンケート形式で返信し、対策本部で即時集計するシステムを導入しました。

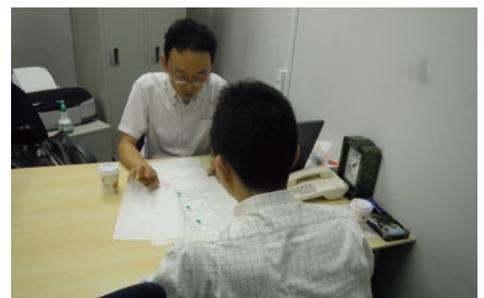
スポーツを愛する体を愛する　ワークライフバランスを大切に

健康を害することなく、いきいきと働ける職場を提供することは、企業にとって重要な責任です。当社は、社員が心身ともに健康な状態を維持できるよう、健康管理体制の充実、病気の予防／早期発見に力を入れています。法令に基づく定期健康診断の受診率は、完全受診を目指しており、事業所の従業員の受診率はほぼ100パーセントです。2010年からは、店舗に勤務する販売員の受診率向上のため、受診機関を数多く設定。2011年度は、総務部と担当部署が連携し、勤務ローテーションを組みやすくすることで、2009年に78%だった受診率が2010年度に91%、2011年度には96%と飛躍的に伸びました。診断後のフォローも行い、長時間勤務者には重点的に指導しています。定期健康診断で所見があった社員には、法令に基づき特定検診機関と協力して、生活習慣を見直す指導を行うほか、メタボリック症候群のケアや特定保健指導の受診も促進しています。

時間外労働の削減

当社では、過重労働による健康障害を防ぐために、「ノー残業デー」を設けています。あわせて「部署別残業データ」の社内公表により、残業削減への意識を高めてきました。また、社内放送による帰宅促進案内や強制消灯も実施。1カ月あたりの時間外勤務時間が80時間を超えた社員には、産業医が簡易健康チェックを行い、病気の予防と早期発見に努めています。2011年度からは、残業の多い社員の上長への個別指導もはじめました。この結果、時間外労働は2年連続で10%以上の削減となりました。さらに東京地区では、産業医への相談機会を月2回から3回に増やすことで、面談人数が76名と30%増加しました。

積極的なメンタルヘルスケア教育

社員が心の問題を抱えることは、企業のパフォーマンスにも少なからず影響を及ぼします。当社は、社員の心の健康を守るために、会社組織として「メンタルヘルス教育」を推進しています。また、健康不安や悩みごとを相談できる「相談窓口」を設置して、多角的に社員のメンタルヘルスのケアに取り組んでいます。

産業医との面談の様子。相談機会を増やしたり「相談窓口」を設けるなどのメンタルヘルスケアに取り組んでいます。

SOCIAL

地域、社会の人を想う。

それぞれの地域や社会には、それぞれのスポーツを楽しむかたちがあります。当社は、その地域、社会のニーズに応える支援活動や店舗づくりに励んでいます。年齢、性別を越えて、より多くの人へスポーツのある豊かなくらしの輪が広がることを願っています。

東日本大震災から１年を迎えて。

東日本大震災から１年が経ち、これまでゴールドウイングループは、被災地の復旧に役立てていただくために、義援金、募金、物資などによる支援をしてきました。震災以降、被災地には多数のアスリートが駆けつけ、スポーツを通じた交流によって、被災者を励まし、勇気を与えています。私達も、被災者の方々が再びフィールドで思いきり汗を流し、スポーツの楽しさや感動を味わうことができるよう、アスリートや支援団体などと協同することで、今後も継続的な支援を実施してまいります。

2011年夏の節電対応

東京電力管内における電力不足に対応するため、節電対策を実施しました。今回の取り組みにおいて、1時間当たりの最大使用量15%削減と該当期間全体の使用量25%削減を実現するため次の対策を掲げました。

１．主な節電策

○最大電力量の15%削減と該当期間の使用量25%削減のための実施事項

照明機器

照度倍の蛍光灯と入替、反射板設置、本数半減共有スペースの照明機器3分の2に本数削減、昼間の使用自粛

空調

稼働台数を半減、設定温度28℃、稼働時間8時30分～19時（延長なし）

エレベーター

１機運行停止（全3台中）

社内施設利用イベント

会場照明機器の使用制限展示会時の外部からの照明持込み制限

情報システム関連

富山社屋へのサーバー移設（2台）、サーバールーム空調変更、パソコンの省電力策の社内通知

労務

週2回以上の「ノー残業デー」をフロア単位での実施

通常夏休みに2日間上乗せ取得促進

２．節電に伴う対応策

・クールビズの推進とともに、自社商品の着用を推奨

・職場へのサーキュレーター設置

・社員食堂での冷感メニューの増加

３．実施対象

ゴールドウイングループ全社（除く富山地区）

４．実施期間

2011年7月1日～9月22日

全社員協力のもと実施した結果、東京本社ビルの最大使用量は前年比25%削減、7～9月の使用量は29%削減と大幅に目標達成ができました。

本社ビル事務所内。蛍光灯は半分以上間引きしました。

震災復興支援でスポーツウエア配布

2011年11月3日(木・祝)岩手県大船渡市盛川河川敷にて「第二回スポレクやっぺし！」が開催されました。前回7月の開催時と同様、フィールドを失った子どもたちが限られた環境の中で再びスポーツの楽しさを実感できるレクリェーションスポーツ体験やステージイベント、炊き出しなどが、大船渡サポートネットワーク・センターなどの地元ボランティアや※GSA関係者で実施されました。2,000名近くの方が足を運んでくださる中、当社の社員ボランティア8名も参加し、ゴールドウイングループが物資提供した防寒着5,000着（男性用、女性用、子供用）の配布が行われました。
※GSA（特定非営利法人グローバル・スポーツ・アライアンス）は、スポーツマンシップの一環として「エコプレー」の実践を呼びかけているスポーツ愛好家の世界的ネットワークです。

岩手県大船渡市盛川河川敷にて、防寒着5,000着の配布を行いました。

“ボランティアに参加して”

総務部　木村　かすみさん
今回ボランティアに参加して、まだ衣類が不足していて、こういった支援を必要としている方がとても多くいらっしゃること、またこの地域でのくらしには、防寒着が必需品であることを改めて感じました。私たちが行った活動は復興へのほんの一部でしかありませんが、被災された方々の生の声を聴く貴重な経験となりました。「ありがとう」という言葉がこんなに嬉しかったことはありません。ほんの少しですが、復興のお手伝いができたのではないかと思います。

地域に根ざした店舗づくりを目指す「Saturday in the park」

Saturday in the park（サタデーインザパーク）は、「人や自然との関わりを大切にし、自由に、楽しく、美しく」がコンセプト。都会の中に自然を感じながらアウトドアやスポーツをしたり、家族とのんびり過ごしたり、そんなやわらかな「土曜日の公園」をイメージしています。当社ならではの幅広い品揃から、周辺地域のお客様のニーズに応える商品をセレクトすることで、企業理念をダイレクトにお客様に感じていただけるショップです。2011年度は、9月に宇都宮店、3月に丸の内店と福岡店の合計3店舗をオープン。
白を基調とした都会的で清々しい売場には、「ザ・ノース・フェイス　パフォーマンスライン」をはじめとして、「ダンスキン」、「シースリーフィット」のランニングアイテムを中心に、機能的、シンプルさ、トレンドがバランス良くミックスされた商品を取り揃えています。
今後はオリジナル商品の展開やオリジナルのイベントを実施し、ショップを通じて都会の中でココロとカラダを整えるための新しいランニングスタイルの提案を行っていきます。

白を基調にシンプルですっきりしたデザインで、清々しい気持ちになれる売場になっています。

地域、社会の人を想う。

それぞれの地域や社会には、それぞれのスポーツを楽しむかたちがあります。当社は、その地域、社会のニーズに応える支援活動や店舗づくりに励んでいます。年齢、性別を越えて、より多くの人へスポーツのある豊かなくらしの輪が広がることを願っています。

トップアスリートからスポーツの楽しさをリアルに体験。「スポーツゲームズ」特別協賛

「スポーツゲームズ」イベントの様子

「スポーツを通じた子どもたちの健全な育成」という観点から、トップアスリートとのさまざまなスポーツ体験を通して新たなスポーツへの可能性を広げるイベント「スポーツゲームズ」に特別協賛しています。「スポーツゲームズ」は、特定非営利活動法人MIPスポーツ・プロジェクトが、子どもたちの将来のスポーツライフをより豊かにする"きっかけ"を与えることを目的とし、1年を通じて全国各地で開催しているイベント。普段から行っているスポーツから未経験のスポーツまで、その地域のニーズにあったプログラムを実施し、子どもたちの新たな可能性を広げます。2001年3月から始まり、2012年3月までに184回開催し、述べ約81,000人の方が来場されました。2011年度は東日本大震災の影響により、開催地、日程の決定が遅れておりましたが、8月28日（日）三重県津市での開催を皮切りに、全国各地でイベントを開催。当社は2002年より特別協賛し、参加する子どもたちへ向けた「循環型リサイクルTシャツ（不要になった時に店舗で回収し、新たな繊維として生まれ変 わるTシャツ）」の提供や展示を行い、「"くりかえし使う"ことでの環境への配慮」を伝えるほか、イベントスタッフへのユニフォーム提供などを行っています。明るい日本の未来へ向けて、子どもたち一人一人がスポーツを通じて夢を持ち、保護者の方々や地域の方々と人間味あふれるコミュニティづくりをするための活動に、これからも協力を続けていきます。

「スポーツゲームズ in 新宿」

「"くりかえし使う"こと」を伝える様子

2012年3月24日、新宿区立新宿スポーツセンターにて「スポーツゲームズ in 新宿」が開催されました。当日は父兄等関係者の参加・見学も多く、参加者は127名、来場者数は230名にのぼりました。小学校4年生から6年生を対象とした「チャレンジスポーツラリー」では、ハンドボール、バトミントン、フットサルの3種目を実施。これはそれぞれのトップアスリートによる指導で多くのスポーツを体験し、将来の豊かなスポーツライフのきっかけづくりをするプログラムです。また、親子で遊びながら身体を動かす楽しさを体験する「MIPコーディー」、中・高齢者を対象として、いくつになっても自分の脚で安全・安心に歩きつづけるためのトレーニングやストレッチを指導し、日常生活の機能向上を目指した「健康セミナー」も実施されました。

参加講師
ハンドボール：岩本　真典（元ハンドボール日本代表/日本リーグ通算得点記録保持者）
バドミントン：片山 卓哉（元バドミントン日本代表）
フットサル：横江 塁（FC東京普及部コーチ/JFA公認B級/フットサル公認C級/キッズリーダーインストラクター）
MIPコーディー：渡辺　哲義（元NTT西日本バドミントン部監督/トリッキーパンダース代表）
健康セミナー（セーフティーウオーキング）：仲　哲治（ダイナミックスポーツ医学研究所課長トレーナー）

高校バスケ部が参加できるトーナメント
チャンピオンカップ2012 at 舞洲アリーナ

高等学校に所属するバスケットボール部を対象とした「チャンピオンカップ　2012 at舞洲アリーナ」を、3月22日、23日に舞洲アリーナ（大阪府大阪市此花区）にて開催しました。チャンピオンカップは「日々の練習で、自分を高め仲間との絆を深める部活生へ向けて、練習の成果を発揮できる場を提供して、腕試しをしたりゲームを純粋に楽しんでもらいたい」という想いから生まれ、高等学校に所属するバスケットボール部であれば、どこでも参加応募ができる大会です。2010年度から始まった当大会は今年度、東京、大阪、栃木で計5回を実施。今年度最後となった今大会は、日本のトップリーグなどでも使用する体育館での開催が実現し、過去最大となる男女各16チーム（計32チーム）のトーナメント形式で行われました。今後もバスケットボール専門コミュニティサイトの「Rokyu.Net」と連動し、高校生がより一層バスケットボールを楽しめる環境づくりを目指していきます。

参加した高校生たちにより、白熱した試合が繰り広げられました。

未来のプロ選手へ。最高レベルの大会で実施された
「PREMIUM DAY FOR JUNIOR」

エレッセは、東京・有明テニスの森で本戦が開催された「2011東レ パン・パシフィック・オープンテニストーナメント」にオフィシャルパートナーとして協賛しました。大会オフィシャルウエアとして全てのスタッフウエアと全選手が使用するオフィシャルタオルなどを提供するとともに、ユーザー参加イベントやブース出店など、さまざまなプロモーションで大会を盛り上げました。28回目を迎える本大会は、WTA（世界女子テニスツアー）において　「グランドスラム」「プレミアマンダトリー」に次ぐ「プレミア5」のグレード に位置し、女子テニス世界ランキングTOP10より7名以上の出場が義務付けられた国内唯一にして最大の国際テニストーナメントです。9月24日大会に先立ち「エレッセ　PREMIUM DAY FOR JUNIOR（プレミアムデーフォージュニア）」としてテニスをこよなく愛するユーザー参加イベントも行われ、未来のプロ選手を夢見る子どもたち50名を対象にジュニアレッスンを実施。プロ志向の子どもたちが、体の使い方やフィジカルエクササイズなどプロの練習も取り入れた本格的なトレーニングに挑戦し、チームエレッセメンバーのプロ選手とプレーができるという充実の内容となりました。

子どもから大人まで、テニスを愛する参加者がプロ選手とプレーするプレミアムなひとときを楽しみました。Photo by てらだよしのぶ

ジュニアチャレンジゴルフ大会

ゴルフ倶楽部ゴールドウインでは、独自のジュニア競技の開催やジュニア大会・ジュニアレッスン会の会場誘致により、次世代のゴルフプレーヤー人口の拡大と育成に貢献しています。2011年で2回目となる本大会は、初心者救済ルールを設け、経験が少ないプレーヤーも参加できる内容。小学4年生から高校生までの日本ゴルフ協会（JGA）ジュニア会員登録者を対象とし、競技は18ホールストロークプレースクラッチ方式で行われました。当日は31人の選手が参加。和気あいあいとした雰囲気で行われた表彰式では、各優勝者に賞状、3位以内の入賞者全員にゴルフグッズが贈呈されました。今後もジュニアゴルフプレーヤーの育成とプレー環境のサポートを継続していきます。

プレーヤーと保護者に囲まれた表彰式

次世代スキーヤーの育成をサポート ナスターレース

当社は、1981年からスキー業界活性化に寄与してきた「ＮＰＯ法人ナスターレース協会」を支援してきました。「ナスターレース（NASTAR RACE）」とは「National Standard Race」の略称で、全国標準のレースのこと。基準となるナショナルペースセッターのタイムと、大会参加者のタイム差をナスターレースポイント（NST-P）という数値で表し、自分のスキーのレベルを数値で得られるのが特徴です。ナスターシステムが導入されている大会であれば、レースのコースや日程が異なっても、ナスターレースポイントで自分の成績を比較できます。日本国内ではナスターレースポイントが算出される公認大会は年に60レース以上。全国ランキングの発表や世界大会への選手派遣などが行われるため、多くの子どもたちにレベルアップの目標にしてもらい、スキーを生涯スポーツとしてもらいたいと考えています。

出場者の集合写真。公認大会は年に60レース以上行われています。

第１３回ゴールドウインナスターレースチルドレン／キッズ　ジャパンカップ

2012年3月10日～11日、新潟県苗場スキー場で開催されたジャパンカップはカナダ、アメリカ、韓国からの海外選手を招いて、全327名というエントリーで行われました。昨年、大会が中止となって残念な思いをしたという選手や、毎年出場を楽しみにしているという選手、遠くは岡山から参加した選手など、大会のチルドレン・キッズ世代への定着化が伺えました。当日行われたウェルカムパーティには、ゲストスキーヤーの木村公宣、川浦あすか、今シーズンのナショナルペースセッターの大越龍之介も来場。海外からの出場選手との交流やプレゼント抽選会なども行われました。

ウェルカムパーティーでは、海外からの出場選手との交流やプレゼント抽選会も行われました。

２０１２ゴールドウインナスターレースチルドレン／キッズ チャンピオンシップ

一昨年より実施している「チャンピオンシップ 東北決勝大会」は、東北6県にて行われる県予選を勝ち抜いた選手が出場できる決勝大会です。県予選は（一部大会を除き）県外からの選手も出場可能な大会として実施されており、エントリー数は前回を上回る359名に上り、苗場のジャパンカップと同様にウィスラーカップ派遣選手選抜大会として、東北以外からも徐々に注目を集めはじめています。

東北決勝大会にてウィスラーカップ派遣選手として選抜された選手たち。

上位選手がウィスラーカップに参戦

2011年度もチャンピオンシップ上位者2名、ジャパンカップから8名が北米最大のジュニアスキーレースである「FIS チルドレンレースウィスラーカップ」に日本チームとして派遣されました。
特にK-1クラスではコンビで女子が1位と3位、男子コンビは2位と6位、GSではK-1クラスで女子が2位と3位、K-2クラスで3位、男子はK-1クラスで5位、SLでは3位。今回はSGにおいてもK-2クラスで女子が8位と9位に入賞。国別対抗戦でもK-1クラスは総合優勝という素晴らしい成績を勝ち取りました。

ウィスラーカップにて、K-1クラスのGSで2位の成績を修めた片桐麻海さん。

各国ごとに出場者たちがウィスラーの街をパレードしました。

北海道の子どもたちに夢とチャンスを広げる大会

今シーズンより初の試みとして行われた「ナスターレースチルドレン／キッズ ドリーム グランプリ」は、なかなか苗場に来られない北海道の選手たちに、ジャパンカップと同様の規模、内容、チャンスが得られることを目的として朝里川温泉スキー場にて実施しました。エントリー数は127名にのぼり、通常の大会より賑やかな選手・ギャラリーの気持ちを盛り上げる大会運営、表彰、パーティが催されたほか、副賞として海外大会への派遣といった盛り沢山の内容。大会や表彰式の演出部分ではナスターレースの他の2主催大会同様に選手やギャラリーが楽しめるものとなりました。またこのドリームグランプリは、国内では開催が少ないスーパー大回転と大回転を行い、チルドレン2カテゴリーについては、二日間の大会各日の上位者、計4名をFISチルドレン大会（スウェーデン・インゲマルトロフィー）へ派遣する選手として選抜しました。

ドリームグランプリの上位4名が、FISチルドレン大会への派遣選手として選ばれました。

楽しくスキーデビュー

初めてスキーを履く子ども（おおむね小学校低学年以下）を対象とした「ナスターレースキッズチャレンジ」。今シーズンは1会場から2会場へと会場を増やしての実施となりました。これは子どもたちに適切な指導をすることにより、スキーを楽しい遊びと感じてもらうこと、そして何度もスキーをしたいと思ってもらいたいという想いのもと行われています。キッズチャレンジでは「自力で滑りだす」「自力で止まる」「左右に曲がる」といった基本的な内容を中心に講習、検定を実施しており、2011年度は北海道北広島クラッセスノーパークとさっぽろばんけいスキー場でSIAクリフプロスキースクールが、枝幸スキー場ではNPO法人三笠山スポーツクラブが検定会を開催。全体で285名が認定証とバッジを受け取りました。

本格的な挑戦も、日常的な楽しみも、バックアップします。

トップアスリートを目指してその道を極めていこうとするプレーヤーも、趣味やリフレッシュとして日常的にスポーツを楽しむ人も、同じスポーツマン。当社はスポーツする人の目的やスタイルに捕われることなく、幅広いサポート活動を実施しています。

極地を目指す若手クライマーの本気をサポート。海外エクスペディション支援プログラム

ザ・ノース・フェイスは、海外で冒険的クライミングを行う若手クライマーのサポートを目的とした「ザ・ノース・フェイス　海外エクスペ ディション支援プログラム　"THE NORTH FACE OVERSEAS EXPEDITION FUND"（OEF）」を2011年10月に立ち上げました。7隊の応募をいただき、選考の結果、2月にサポートを行う2隊が決定。インドネシア西カリマンタン州にそびえる未踏の大岩壁バトゥダヤの初登攀（諸事情により、この隊へのサポートは中止しました。）とインドヒマラヤの未踏峰にそれぞれが挑みます。

このプログラムは、日本のアルパインクライミングシーンを牽引してきた馬目弘仁氏の発案に、世界のフリークライミングシーンをリードする平山ユージ氏（ともにザ・ノース・フェイス グローバルアスリート）が共鳴し、実現しました。

ブランドのテーマである"Never Stop Exploring"（あくなき探求）を体現するような世界へ向けた冒険的クライミングを計画する若いクライマーに、資金的・物資的な支援を行うことで、クライミング文化のさらなる発展と挑戦する精神の大切さを伝えることを目的としており、今後も年一回、継続していく予定です。

※選考委員のプロフィール

・馬目　弘仁氏

1969年3月1日生れ、福島県いわき市出身。

2006年、4度目の挑戦でメルー峰シャークスフィンを攻略。2008年、テンカンポチェ峰北東壁初登攀。2008年よりWCMを主催、世界に誇る日本アルパインクライミングシーンの活性化に大きく貢献。

・平山 ユージ氏

1969年2月23日生れ、東京都出身

2度のワールドカップ総合優勝、ヨセミテ、ビッグウォールのオンサイトトライ、ハードルートオンサイト等、輝かしいキャリアは数え切れない。2008年エルキャピタンノーズスピード記録更新。09年コブラクラック第6登。

写真左より選考委員の平山ユージ氏、馬目弘仁氏

ファッションの街を駆け抜ける「渋谷・表参道 Women's Run」に特別協賛。

当社は、2012年3月4日(日)に行われた「渋谷・表参道 Women's Run」に「ザ・ノース・フェイス」ブランドで協賛しました。この大会は、東京渋谷区の代々木公園をスタート／ゴールとし、トレンド発信地である表参道を女性ランナーがおしゃれに、そして真剣に駆け抜ける日本最大級の女性のための大会です。1994年、明治通りに直営店をオープンして以来、ブランドの拠点を置いてきた原宿、表参道地区や明治神宮、代々木公園は、都会の中でも緑があふれるフィールド。その中を女性ランナーが、楽しく、美しく走る当大会への協賛を通じて、ザ・ノース・フェイスが掲げる「Green Running（自然と親しみ、季節を感じながら気持ちよく走ることの素晴らしさ）」を提案し、渋谷・表参道エリアでのランニング市場の活性化を目指します。当社は10kmの参加賞として配布される特製オリジナルTシャツを制作しています。吸水速乾素材を用いたサラサラの着心地で、UPF50の高UVカット素材により、女性の大敵である日焼けを防ぎます。

代々木公園から4000人の女性ランナーがスタート。華やかにファッションの街を駆け抜けました。

水辺の人命救助を実践しているJLAライフセイバーから学ぶ ヘリーハンセン「海の安全教室」

「ヘリーハンセン」は、JLA（特定非営利活動法人日本ライフセービング協会）による「海の安全教室」を、2011年7月30日（土）、THE NORTH FACE /HELLY HANSEN鎌倉店にて開催。

1877年、ノルウェーで漁師の為の防水着メーカーとして創業を開始し、以来130年以上、水に関わってきたヘリーハンセンは、日本の全国各地で水 辺の監視・人命救助を実践しているJLAに、スキッパーシャツやスイムトランクスを始めとするパトロールユニフォームのサポートを行っています。

今回は、そのJLAからライフセイバーを講師として招き、「海の安全教室」を開催しました。はじめに、過去の水難事故事例をもとに、危険なポイントや事故を未然に防ぐための注意点、事故発生時の対処法などを説明。そして「セルフレスキュー（自分の身は自分で守る）」を学びながら、親子や仲間と一緒に、海での危険回避の知識・技術や、人命救助方法、事故に遭遇した際に役立つ心肺蘇生法（CPR）のデモンストレーションなど、必ず役に立つ安全知識を深めました。

「がんばろう、日本！元気発信、山中湖！」 第31回スポニチ山中湖ロードレースに協賛

当社は、2011年5月29日（日）に行われた「スポニチ山中湖ロードレース」に協賛しました。

この大会は、新緑の湖畔を走る大変人気のある大会で、当社では29年に渡ってこの大会の協賛をつとめています。2011年も参加賞として配布される「チャンピオン」のTシャツと、スタッフジャンパーを制作・協賛しています。また、大会会場では、チャンピオン記念撮影コーナーの設置、当社社製品「チャンピオン」の展示・販売など、ランナーの皆さんとのコミュニケーションが図られました。

今回の大会は、発生した東日本大震災の被災地復興を支援するためのチャリティー事業として、千葉真子さんによるランニングクリニックや、サイン入りTシャツ販売などを行ない、その収益金を義援金として被災地に送らせていただきました。

「吉田裕美子賞」

今大会では、昨年に引きつづき、もっとも輝いている女性へ「吉田裕美子賞」が設定。

これは、生前、本大会の運営に多大に貢献した当社社員、故・吉田裕美子の功績を讃えて設定された賞で、この大会に参加する女性ランナー・女性ボランティアの中から、山中湖村とスポーツニッポン新聞社で、今もっとも輝いている女性に対し、記念品を差し上げるものです。

リゾート地として人気の山中湖。レースは新緑の湖畔からスタートします。

参加者全員に配布されたチャンピオンブランドのTシャツ

会社情報

株式会社ゴールドウイン
GOLDWIN INC.

東京本社
〒150-8517 東京都渋谷区松涛 2-20-6
TEL 03-3481-7201（代表）

本店
〒932-0112 富山県小矢部市清沢210
TEL 0766-61-4800（代表）

設立
昭和26年12月22日

資本金
10,416百万円

年商（連結）
48,641百万円

年商（単独）
42,100百万円

従業員
1,199名（グループ 1,942名）

事業所
本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、名古屋営業所、
北陸営業所、福岡営業所

（2012年3月31日現在）

会社概要詳細
http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html

ホームページ
http://www.goldwin.co.jp/

決算公告・決算短信
http://www.goldwin.co.jp/corp/ir/index.html

経営情報

連 結

単 独

売上高

経常利益

当期純損益